

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
—
自己評価結果
—
課題と対応策
—

後期（実績評価）

実施内容
<p>■介護サービスの基盤整備と充実</p> <p>●「住民主体の多様なサービス・通所型サービス B」の新設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北谷地地区に「茶の間・北星」（代表 中上亮一氏）を新設 ・令和元年度は毎週月曜日の開催としているが、令和 2 年度からは週 2 回の開催を予定している。 <p>※令和元年度に山形県福祉型小さな拠点づくり補助金を活用し準備を進めた。</p>
自己評価結果
<p>自己評価結果【◎】</p> <p>実施数(箇所)：北谷地地区 1 か所：達成率 100% 【目標：1 か所】</p>
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・町で平成 27 年度から生活支援勉強会を開催するなど人材育成に務めた結果、住民主体の多様なサービス・通所型サービス B の新設につながった ・本来の目的である、要支援程度の人が定期的に通うまでには「車での送迎」の関係もあり、自分で通える範囲の人に限定されている。現在の車での送迎は、各実施団体の判断で行っている。全体的な取り組みといった面では、引き続き外出支援が課題と考える。

※シートの作成にあたっては「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き」（平成 30 年 7 月 30 日 厚生労働省老健局介護保険計画課）38 ページ～を参照してください。

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
—
自己評価結果
—
課題と対応策
—

後期（実績評価）

実施内容
<p>■健康づくりと介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住民主体の通いの場（いきいき百歳体操）の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・広報への実施団体の紹介、老人クラブや健康づくり推進員に対しチラシを配布するなど啓蒙した ●介護予防普及啓発事業（介護予防教室）、地域介護予防活動支援事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な認知症予防教室開催になるよう、内容の見直しを図るなど介護予防の強化に務めた ●地域リハビリテーション活動支援事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・地域における介護予防の強化、又、要介護状態になっても参加し続けることのできる通いの場を提供できるよう定期的に専門職が関与した
自己評価結果
<p>自己評価結果【◎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住民主体の通いの場（いきいき百歳体操）実施数 5 か所：達成率 100% 【目標：5 か所】 ●介護予防普及啓発事業（介護予防教室）、地域介護予防活動支援事業実施回数 124 回：達成率 95.3% 【目標：130 回】 ●介護予防普及啓発事業（介護予防教室）、地域介護予防活動支援事業延参加者数 3,062 人：達成率 111% 【目標：2,750 人】 ●地域リハビリテーション活動支援事業回数 9 回：達成率 75% 【目標：12 回】（新型コロナウイルス感染拡大防止のため 3 月の実施が中止）
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき百歳体操は平成 27 年度から実施しているが口コミなどの効果でようやく 5 か所の継続開催に結びついた。今後も人材育成、積極的な啓蒙につなげていく必要がある。 ・地域リハビリテーション活動支援事業は昨年度からの事業であったが、いきいき百歳体操実施団体等に対し管理栄養士・歯科衛生士の派遣をすることができた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 3 月の実施が中止となったため、回数が減少した。

※シートの作成にあたっては「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き」（平成 30 年 7 月 30 日厚生労働省老健局介護保険計画課）38 ページ～を参照してください。

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
—
自己評価結果
—
課題と対応策
—

後期（実績評価）

実施内容
<p>■ 高齢者の自立支援、重症化防止の促進</p> <p>● 自立支援型地域ケア会議の実施</p>
自己評価結果
<p>自己評価結果【◎】</p> <p>● 自立支援型地域ケア会議実施回数 12回：達成率 100% 【目標：12回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動器機能リスク高齢者の割合 目標：令和元年度 16.0% → これから抽出 ・ 栄養改善リスク高齢者の割合 目標：令和元年度 5.0% → これから抽出 ・ 転倒リスク高齢者の割合 目標：令和元年度 28.0% → これから抽出
課題と対応策
<p>・ 平成 27 年度から様々な専門職が参画した自立支援型地域ケア会議において、自立支援・重度化防止について検討してきた。専門職からの助言を生かし、介護度が改善（多くは現状維持）したケースもみられ、要支援・総合事業対象者で改善（卒業）した方がH30 0.5%（367 件中 2 件）が、R1 1.6%（426 件中 7 件）増加していることから、今後もケアマネジャーに対し、定期的な勉強会などを行いながら実践していくことが必要と思われる</p>

※シートの作成にあたっては「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き」（平成 30 年 7 月 30 日 厚生労働省老健局介護保険計画課）38 ページ～を参照してください。

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
-----------	-------

前期（中間見直し）

実施内容
—
自己評価結果
—
課題と対応策
—

後期（実績評価）

実施内容
<p>■認知症高齢者支援対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●認知症初期集中支援チーム事業の実施 ●認知症サポーター養成講座の実施 ●認知症見守り支援連絡協議会会議開催 ●認知症カフェ開催
自己評価結果
<p>自己評価結果【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●認知症初期集中支援チーム会議開催回数 5回：達成率 93.3% 【目標：6回】 ●認知症初期集中支援チーム事例実件数 2件：達成率 33.3% 【目標：6件】 ●認知症サポーター養成講座の実施回数 13回：達成率 92.9% 【目標：14回】 ●認知症サポーター養成講座参加者数 256人：達成率 52.2% 【目標：490人】 ●認知症見守り支援連絡協議会会議開催回数 1回（書面協議）：達成率 100% 【目標：1回】 ●認知症カフェ開催回数 11回：（コロナ感染拡大防止のため3月中止）達成率 91.7% 【目標：12回】 <p>・認知症リスク高齢者の割合 目標：令和元年度 41.0% → これから抽出</p>
課題と対応策
<p>・平成30年4月より認知症初期集中支援チーム活動が開始されたが、昨年は実数5件であったが今年度は2件にとどまった。広報や民生委員などを通して町民に活動内容を周知することが必要と思われる。新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月の会議や認知症サポーター養成講座（H30 486人）などが中止となったため、回数や参加者数が減少した。</p>

※シートの作成にあたっては「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き」（平成30年7月30日 厚生労働省老健局介護保険計画課）38ページ～を参照してください。

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
—
自己評価結果
—
課題と対応策
—

後期（実績評価）

実施内容
■いきがいきづくりと社会活動への参加の促進 ●老人クラブの活動推進 ●シルバー人材センターの活動推進
自己評価結果
自己評価結果【○】 ●老人クラブ連合会 クラブ数 31クラブ：達成率100% 【目標：31クラブ】 ●老人クラブ連合会 会員数 1,589人：達成率93.5% 【目標：1,700人】 ●シルバー人材センター会員数 238人：達成率110% 【目標：216人】 ・閉じこもりリスク高齢者の割合 目標：令和元年度18.0% → これから抽出 ・うつリスク高齢者の割合 目標：令和元年度35.0% → これから抽出 ・ボランティア等に参加している高齢者の割合 目標：令和元年度16.5% → 17.7% ・スポーツ関係のグループやクラブに参加している高齢者の割合 目標：令和元年度22.0% → 22.5% ・趣味関係のグループに参加している高齢者の割合 目標：令和元年度29.0% → 28.1% ・地域づくりへの参加意向のある高齢者の割合 目標：令和元年度63.0% → 53.2% ・地域づくりへの企画・運営としての参加意向のある高齢者の割合 目標：令和元年度37.0% → 31.8%
課題と対応策
老人クラブの加入数はH29 1,880人、H30 1,635人と年々減少している。全国的にも会員数の減少の原因は、価値観の相違や趣味の多様化などと言われているため、会員数を増やすのはかなり困難と思われる。一方シルバー人材センター会員数はH29 216人、H30 222人と年々増加し、就業を通して生きがいきづくりの促進が図られていると思われる。他アンケート調査結果からも前回の結果から数値が良くなっている項目が見られた。

※シートの作成にあたっては「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き」（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）38ページ～を参照してください。

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和元年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
—
自己評価結果
—
課題と対応策
—

後期（実績評価）

実施内容
<p>■介護給付費適正化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●要介護認定の適正化 認定審査会に諮る前に全件について担当職員が点検、内容確認 ●ケアプランの点検の実施 年1回 5件実施 ●住宅改修、福祉用具購入及び貸与の点検 全件について担当職員が点検、内容確認 ●医療情報との突合、縦覧点検 国保連からのデータを用い、介護と医療が併用している場合不適切な利用がないかどうか医療部門との担当者と情報の共有を行う。
自己評価結果
<p>自己評価結果【◎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●要介護認定事後点検の実施 100%：達成率100% 【目標：100%】 ●業務分析データの活用等による課題の把握 年1回：達成率100% 【目標：1回/年】 ●ケアプランの点検事業所数 1事業所：達成率100% 【目標：1事業所】 ●地域ケア会議での点検 35回：達成率97.2% 【目標：36件】
課題と対応策
<p>「介護給付費の適正化」を図ることにより、利用者に対する適切な介護サービスが確保されるとともに、不適切な給付が削減されることで、介護給付費の増大や介護保険料の上昇が抑制されると思われる。</p>

※シートの作成にあたっては「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き」（平成30年7月30日 厚生労働省老健局介護保険計画課）38ページ～を参照してください。